

令和 6 年度

全国学力・学習状況調査

特徴的な問題

一校内研修及び授業に生かすために一

令和 6 年 5 月

富 山 県 教 育 委 員 会

「特徴的な問題」とは

教員による指導方法の改善や児童生徒の学習改善・学習意欲の向上等につながるよう、学習指導上特に重視される点や身に付けるべき力を具体的に示すメッセージとなる問題

◎ 「特徴的な問題」を、上記のような問題として取り上げました。

今、求められている「身に付けさせたい資質・能力」を理解し、学習指導の改善・充実を図ることができるよう、日々の授業や校内研修等でご活用ください。

【令和 6 年度版】 目 次

○	特徴的な問題	ページ
1	小学校「国語」	1
2	中学校「国語」	4
3	小学校「算数」	7
4	中学校「数学」	10
○	令和 6 年度全国学力・学習状況調査の傾向（児童生徒質問調査）	13
○	令和 6 年度全国学力・学習状況調査の傾向（学校質問調査）	15

1 小学校「国語」

(1) 国語 設問番号2 二 学校のよさを伝える文章を書く

学習指導要領の内容：5・6学年 B書くことウ

評価の観点：思考・判断・表現 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる。

集めた材料を基に、事実と意見とを区別して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるかどうかをみる問題

※上の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。
解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。どちらうで行を変えないで、続けて書きましょう。

正答例
「お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった」という1年生や、「みんなが楽しそうでうれしかった」という4年生がいます。このように、「たてわり遊び」のよいところは、学年をこえた交流ができるころだと思います。
(100字)

○ ○ ○ (条件)
「たてわり遊び」のよさについて考えたことを書くこと。
「高山さんの取材メモ」の下級生に聞いたことから言葉や文を取り上げて書くこと。
六十字以上、百字以内にとめて書くこと。

【高山さんの文章】

みんな仲良し「たてわりはん」

わたしたちの学校には、1年生から6年生までのメンバーが、同じはんで活動する「たてわりはん」の取り組みがあります。「運動会」や「たてわり遊び」を通して、ちがう学年の人とも仲良くなります。

「運動会」は、「たてわりはん」ごとに赤、青、黄の色を決め、3色対こうで行います。上級生が下級生に応えんの仕方を教えたり、下級生も楽しめるように、アキょうぎの作戦を考えたりします。「みんなでつな引きをして楽しい」という2年生や、「下級生といっしょに応えんして熱い気持ちになる」という5年生がいます。このように、「運動会」のよいところは、みんなの心が一つになるころだと思えます。

「たてわり遊び」は、毎月1回、休み時間に「たてわりはん」で遊ぶ活動です。みんなが楽しめるように、6年生が、遊びたいことを下級生に聞いたり、ルールをくふうしたりします。例えば、ドッジボールでは、上級生が遠くからボールをい上げるようにしています。

【高山さんの取材メモ】

「たてわり遊び」について
6年生がくふうしていること
○遊びたいことを下級生に聞く
○ルールをくふうする
ドッジボール 上級生は遠くからボールを上げる
下級生に聞いたこと
○1年生 お兄さんやお姉さんと遊べて楽しかった
○3年生 好きな遊びや新しい友達が増えた
○4年生 みんなが楽しそうでうれしかった

2 高山さんの学級では、学校のよさを伝える文章を書くことにしました。高山さんは、学校のよさを考えながらメモを書き、文章に書くことを決めました。次は、「高山さんのメモ」と「高山さんの考え」です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

二 高山さんは、次の「高山さんの文章」の考えた「たてわり遊び」のよさを書こうとしています。あなたも高山さんなら、に、「高山さんの取材メモ」をもとにして内容をどのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

学習指導上の留意点

- 目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるようにする
- 事実を客観的に書くとともに、その事実と感想や意見との関係を十分捉えて書くことが大切である。

指導のポイント

- ① 事物のよさを多くの人に推薦する文章を書くなど、理由や事例を明確にしなが、筋道を立てて自分の考えを述べる活動を設定する。
- ② 自分の考えとそれを支える理由や事例といった関係性が明確になっているか、事例は客観的な事実裏付けられているかを吟味する学習活動を設定する。その際、理由・事例を示す表現や文末表現の書き表し方について確認する場をもつ。
- ③ 考えと理由や事例のつながり等について、友達同士で確認し合うなど、読み手の視点に立って考えを深められるような学習活動を設定する。

・参考：報告書 令和3年度 P. 42～53、授業アイディア例 令和3年度 P. 5～6

(2) 国語 設問番号1三 学校の取り組みをオンラインで紹介し合う

学習指導要領の内容：5・6学年 A話すこと・聞くことア

評価の観点：思考・判断・表現 問題形式：選択式

【出題の趣旨】 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝え合う内容を検討することができるかどうかをみる。

学習を振り返り、情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができたことを捉えることができるかどうかをみる問題

4 複数の情報をまとめて伝えることができた。

3 自分の学校の「地いきならではの取り組み」に、関係する情報を整理していたことで、事実と感想とを区別して伝えることができた。

2 相手の学校の「地いきならではの取り組み」に、関係する情報を整理していたことで、複数の情報をまとめて伝えることができた。

1 相手の学校の「地いきならではの取り組み」に、関係する情報を整理していたことで、事実と感想とを区別して伝えることができた。

【和田さんのメモ】

村木さんが知りたいこと

図書委員会の取り組み

○読書イベント

・月に1回

・クイズなど

自分が伝えたいこと

○アイデア給食

・年に2回

・自分たちが考えたこんだて

これは伝えたい

質問されたら答える

用意するもの

・クイズが書かれたカード

・海の生き物の写真

地いきならではの取り組み

○総合的な学習の時間

・海の生き物の調査

○すなはまの清そう活動

・学期に1回

○音楽クラブの演そう会

・たん当の楽器は木さん

・地いきの行事に参加

1 海風小学校の和田さんの学級では、深緑小学校と学校の取り組みをオンラインでしようかいし合うことになりました。和田さんは、深緑小学校の村木さんとしようかいし合おうとしています。次は、村木さんから事前に「和田さんに届いたメールの内容」です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【オンライン交流の様子の一部】



14 はい。給食の時間が楽しみです。ところで、和田さんの学校は、海に近いということですが、他にも、海に近い学校ならではの取り組みはありますか。



15 えっと…（【和田さんのメモ】を見返す）、二つあります。総合的な学習の時間の取り組みと、砂浜の清掃活動です。



16 二つもあるんですね。ぜひ、一つ一つ詳しく教えてください。

～（交流が続く）～

正答 4

学習指導上の留意点

○ 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を分類したり関係付けたりできるようにする

自分の目的や意図に応じて、聞き手の求めていることに応じて集めた材料をどのように整理すればよいかを考えることが大切である。

指導のポイント

- ① 自分の目的や意図に応じて、聞き手が求めていることに応じて、聞いたり話し合ったりすることを具体的に考え、関係する資料を整理する時間を設定する。
- ② 伝える内容を検討する際には、多様な内容や別々の要素等をまとめたり、語句と語句を線でつないだりするなど〔知識及び技能〕(2)情報の扱い方に関する事項との関連を図った指導を行う。
- ③ 紹介する内容を決め、事前に整理したメモを生かして交流する場面において、メモに整理したことが、どのように役立ったのかについて、ICTを活用するなどして学習を振り返り、自覚することができるようにする。

(3) 国語 設問番号 **3** 三 物語を読み、心に残ったところを説明する

学習指導要領の内容：5・6 学年 C読むことエ

評価の観点：思考・判断・表現 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる。

文章を読んで、心に残ったところとその理由を、文章から言葉や文を取り上げてまとめることができるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉

令和4年度 **2**二(県 68.9% 国 68.3%)、**2**三(県 59.3% 国 59.2%)

3 原さんの学級では、物語を読み、心に残ったところについて説明することにしました。原さんは、「オニグモじいさんの朝ごはん」という題名の物語を選んで読んでいます。次は、原さんが読んだ【物語】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。	文章の内容については、調査問題をご覧ください。 (松居スーザン「オニグモじいさんの朝ごはん」による。)	三 原さんは、鳥さんと話し合ったあと、【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をまとめています。あなたなら、【物語】を読んで、心に残ったところとその理由をどのようにまとめますか。次の条件に合わせて書きましょう。 〈条件〉 ○ 心に残ったところと、心に残った理由を書くこと。 ○ 【物語】から言葉や文を取り上げて書くこと。 ○ 六十文字以上、百字以内にまとめて書くこと。 ※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。 ※◆の印から書きましょう。どちらの行を変えないで、続けて書きましょう。	100字 50字	正答例 オニグモじいさんが、ハエの女の子に、自分が食べているのは朝日のひかりだと話したところが心に残りました。その理由は、すなおな女の子をおどろかせず、安全に帰そうとするやさしさが表れていると思ったからです。(100字)
---	--	---	------------------------	--

学習指導上の留意点

○ 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりできるようにする

登場人物の行動や会話、様子等を表している複数の叙述を結び付け、それらを基に性格や考え方等を総合して判断したり、想像した人物像や全体像と関わらせながら、様々な表現が読み手に与える効果について自分の考えを明らかにしたりすることが大切である。

指導のポイント

- ① これまでに物語を読んだ経験等を想起しながら、読む目的や読みの観点（登場人物の人物像、相互関係、物語の展開、表現の効果等）を明確にする場を設定する。
- ② 心に残ったことをまとめる際に使う言葉等を具体的に考える場を設定することで、「何が書かれているか」という内容面だけでなく、「どのように描かれているか」という表現面にも着目して読むことができるようにする。
- ③ 着目した叙述から考えられることをノート等にまとめて交流することで、物語の全体像をより具体的に捉えたり、考えを広げたりすることができるようにする。

2 中学校「国語」

(1) 国語 設問番号1四 話し合いをする

学習指導要領の内容：1 学年 A 話すこと・聞くこと

評価の観点：思考・判断・表現 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるかどうかをみる。

資料を基にした話し合いの話題や発言を踏まえ、自分の考えを書くことができるかどうかをみる問題



山岡さん

フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考えてみる必要があると感じました。皆さんは、これからどのように本を選ぶと思いますか。

正答例
山岡さんの発言にあった、様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページを利用してみたいと思います。自分とは異なる価値観に意識して触れ、多様な意見に触れにくい状態に陥らないようにすることが大切だと思いました。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※ 左の枠は、下書きに使ってもかまいません。解答は必ず解答用紙に書きなさい。

条件1 フィルターバブル現象の特徴について取り上げながら、これからどのように本を選びたいかを具体的に書くこと。
条件2 【話し合いの一部】の誰の発言と結び付くのが分かるように書くこと。

四 【話し合いの一部】の山岡さんの最後の発言を受けて、あなたならどのような考えを述べますか。次の条件1と条件2にしたがって、実際に話すように書きなさい。
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

学習指導上の留意点

○ 話し合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめることができるようにする

話し合いの展開に応じて、自分の発言と他者の発言とを結び付けたり、他者同士の発言を結び付けたりして、自分の考えや集団としての考えをまとめることが重要である。

指導のポイント

- ① 何についてどのような目的で話し合っているかといった、目指している到達点を常に意識することができるように指導する。
- ② 話の内容を正確に理解するために、必要に応じて重要な情報を書き留めたり、分からないことや知りたいこと等を話し手に尋ねたりするなどの言語活動を設定する。
- ③ ICTを活用して話し合いの様子を個人で振り返ったり、振り返った内容をグループで共有したりする場を設定する。

・参考：授業アイディア例 令和3年度 P.3～4

(2) 国語 設問番号1三 話し合いをする

学習指導要領の内容：1 学年 (2) 情報の扱い方に関する事項ア

評価の観点：知識・技能 問題形式：選択式

【出題の趣旨】 意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる。

話し合いをする場面において、発言が意見と意見を支える理由であることを捉えることができるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉

令和5年度1二(県 66.3% 国 65.1%)

1 山岡さんたちは、国語の時間に、「フィルターバブル現象の資料」をもとに、グループで話題を決めて話し合っています。次の「フィルターバブル現象の資料」と「話し合いの一部」を読んで、あとの問いに答えなさい。

【フィルターバブル現象の資料】

〈図〉

フィルターバブル現象

自分の好む情報「だけ」に囲まれ、多様な意見から隔離されやすくなる現象。

〈解説〉

インターネットで検索したり閲覧したりした履歴が、使用した通信機器などに記憶され、解析されることで、その利用者の好む情報が優先的に表示されるようになる。一方で、好まないと思われる情報は、はじかれてしまう。このような、情報の偏りが生じたり多様な意見に触れにくくなったりする状態のことを「フィルターバブル現象」という。

例えば、野球についての検索を多くしていると、次第に野球に関する情報が優先的に表示されるようになる。

【話し合いの一部】

山岡さん：そういえば、インターネットでも様々な人がおすすめの本を紹介しているウェブページがありますよ。そこで紹介されている本は、本を探している側の好みによって選ばれているわけではないので、フィルターバブル現象の影響は受けにくいのではないのでしょうか。

今井さん：そのような本の選び方は、学校図書館で、おすすめの本のコーナーから本を選ぶことと似ていますね。おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。

山岡さん：フィルターバブル現象のことを意識すると、本の選び方についても改めて考えてみる必要があると感じました。皆さんは、これからどのように本を選ぶと思いますか。

三

【話し合いの一部】の線部③「おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているので、自分とは異なる価値観に触れることもできますね。」という発言について説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。

- 1 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという事実を、具体例を示しながら述べている。
- 2 おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという意見を、理由を明確にして述べている。
- 3 おすすめの本のコーナーを利用することが自分とは異なる価値観に触れることになるという意見を、理由を明確にして述べている。
- 4 おすすめの本には、その本をすすめる人の好みや考えが反映されているという事実を、具体例を示しながら述べている。

正答 3

学習指導上の留意点

- 意見と根拠など情報と情報との関係について理解することができるようにする
- 話や文章の中に含まれている情報と情報とがどのように結び付いているかを捉えたり、整理したりすることが大切である。

指導のポイント

- ① 考えとともに考えの拠り所となる事例が示されているかを確認するなど、話や文章の中に示されている考えと、それを支える根拠との関係を明らかにすることができるよう指導する。
- ② 目的や場面、意図に応じて資料を集め、資料から必要な情報を取り出して整理する際に、図表を用いるなどして、観点に沿って整理する場を設定する。

・参考：報告書 令和5年度 P. 19～31、平成26年度 P. 40～43

(3) 国語 設問番号3 四 物語を創作する

学習指導要領の内容：2 学年 B 書くことウ

評価の観点：思考・判断・表現 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるかどうかをみる。

表現を工夫して物語の最後の場面を書き、工夫した表現がどのような効果があるのかを具体的に書くことができるかどうかをみる問題

3 佐藤さんは、国語の時間に、「体験をもとに、身近なものを登場人物にした物語を書く」という学習に取り組んでいます。次は、佐藤さんが構想をまとめた「フートの一部」と「物語の下書き」です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。（フートの一部及び「物語の下書き」の1から4は、場面の番号を表します。）

フートの一部

（登場人物の設定）
・「僕」……紙の辞書。語り手。
・「君」……紙の辞書の持ち主（小学生）。
（もとにする体験）
・小学生のとき、紙の辞書を机に置き置きで使っていた。
・使った後、紙の辞書の持ち主が誰か分からなくなっていた。
・最近はおオンライン辞書ばかり使っている。
・紙の辞書を久しぶりに使った。
（物語を通して伝えたいこと）
紙の辞書を久しぶりに使った思い出。
（各場面から伝えたい「僕」の心情）
① 出番のない寂しさ。
② 忘れられるかもしれない不安。
③ 久しぶりの出番で感じた喜び。
④ 次の出番への期待。

四 佐藤さんは、「物語の下書き」の ④ の部分で、「フートの一部」の ④ の場面の「僕」の心情を伝えて物語を終えようとしています。あなたなら、どのように工夫して書きますか。次のア、イについて、それぞれの指示にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

ア 「あの日から数日が過ぎた。」に続けて、表現を工夫して書きなさい。

イ あなたがアで書いた表現には、どのような効果があるのかを具体的に書きなさい。

ア あの日から数日が過ぎた。

イ

① あの日僕は、君の部屋の木棚の隅でじっと待っていた。ほこりだらけになりながら。中学生になってから、君はオンライン辞書を使うようになった。以前はよく、印を付けたり、書き込みをしたりしていたのに。君との距離は、ずいぶん遠くなってしまった。

② インターネットだと、複数の辞書にアクセスできるから、タブレット端末だけを持ち運べばよい。単語さえ入力すれば、すぐに知りたいことが載ってくださるし、かさばらない。君にとっては、とても便利なのだろう。僕なんて、このまま忘れられてしまうのかな。

③ そう考えていたとき、君は僕を手に取った。学校にタブレットを置いてきたのだろうか。久しぶりだったから、僕はびっくりし、君はほこりで大きくしみをした。ほこりだらけの僕に顔をしかめたけれど、何度もページを繰っては、いろいろな言葉の意味を調べていた。当然、いつもよりは時間がかかっている。調べなければならぬ言葉だけでなく、近くにある言葉にも線を引き、意味を確認する君を、意味調べが終わっても、君は僕をいつもの場所に置きなかつた。しばらくページを繰り、小学生のときに印を付けた言葉や書き込んだ言葉を読み返していた。君はみだりな表情をしていた。僕は自分が認められたような気がした。

④ あの日から数日が過ぎた。

正答例

ア （あの日から数日過ぎた。）窓から差し込む光を浴びながら、今日も僕はいつもの場所で君を待っている。

イ 「窓から差し込む光を浴びながら」のように情景を描写することで、「僕」の期待感が印象的に伝わる。

学習指導上の留意点

- 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文章になるように工夫することができるようにする

語句や表現が、文章の内容を伝えたり印象付けたりする上で、どのように働いているかを考えながら、より効果的な語句を選んで描写することが重要である。

指導のポイント

- ① 表現が、自分の考えを明確に伝えるために機能しているか、どのような効果を生んでいるかなどについて、読み手の立場から検討する場を設定する。
- ② 表現の工夫とその効果について、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだす場を設定する。

3 小学校「算数」

(1) 算数 設問番号 5 (4) 身の回りの事象を目的に応じて表やグラフを用いて考察すること

学習指導要領の領域等：2 学年 A 数と計算 (1) イ (ア)

3 学年 D データの活用 (1) ア (ア)

評価の観点：思考・判断・表現 問題形式：短答式

【出題の趣旨】 示された情報を基に、表から必要な数値を読み取って式に表し、基準値を超えるかどうかを判断できるかどうかをみる。

日常生活の問題を解決するために、目的に応じて必要なデータを収集し、表やグラフに表し、身の回りの事象を数学的に考察できるかどうかをみる問題

5

(4) こうたさんは、3 月 19 日の卒業式の日までに、桜が開花してほしいと思っています。

桜がいつ開花するか知りたいと思い、桜の開花予想日について調べたところ、下のような桜の開花予想日の求め方を見つけました。

桜の開花予想日の求め方

- ① 2 月 1 日から、毎日の最高気温の数値をたしていく。
- ② 毎日の最高気温の数値をたした答えが、初めて 600 以上になったその日を桜の開花予想日とする。



今日は 3 月 16 日です。桜はまだ開花していません。

桜の開花予想日の求め方の①のように計算すると、3 月 15 日までの最高気温の数値をたした答えは 549 でした。

3 月 16 日からの最高気温の予報は、下の表のとおりです。

3 月 16 日から 3 月 19 日までの最高気温の予報

日にち	3 月 16 日	3 月 17 日	3 月 18 日	3 月 19 日
最高気温 (度)	21	20	15	14

こうたさんは、3 月 16 日以降は予報どりの最高気温になるとして、桜の開花予想日の求め方を使って、桜の開花予想日を求めました。桜の開花予想日について、次のようにまとめることができます。

最高気温の数値をたしていった答えが、初めて 600 以上になる式は、 ㊟ だから、桜の開花予想日は 3 月 ㊥ 日です。

上の㊟に入る式を、下の 1 から 4 までのの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。また、上の㊥に入る数を書きましょう。

- 1 $549 + 21$
- 2 $549 + 21 + 20$
- 3 $549 + 21 + 20 + 15$
- 4 $549 + 21 + 20 + 15 + 14$

正答

【㊟】3 【㊥】18

学習指導上の留意点

○ 日常生活の問題を解決するために、目的に応じて収集したデータを分類整理し、表やグラフを用いて、身の回りの事象について考察できるようにする

興味・関心や問題意識に基づき、必要なデータを収集し、分類整理したり、表や適切なグラフに表したりして、統計的に問題を解決できるようにすることが大切である。また、問題を解決するために、条件や情報を解釈し、数学的に表現し、判断できるようにすることも大切である。

指導のポイント

- ① 児童自身が課題を明確に捉え、それに沿って資料を積極的に集め、観点を決めて分類整理することができるよう配慮する。
- ② 表やグラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことを、表のどの部分から、あるいはグラフのどの部分からそのように考えたのかを、ほかの人にも分かるように伝える活動を取り入れる。
- ③ 表やグラフの部分と部分や、複数のグラフを比べ、同じところや似ているところ、少し違うところや大きく違うところなどを見いだし、表現できるようにするとともに、伝え合うことで様々な考えがあることに気付くことができる活動を取り入れる。

(2) 算数 設問番号4 (3) 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察すること

学習指導要領の領域等：5 学年 C 変化と関係 (2) ア (ア) イ (ア)

評価の観点：思考・判断・表現 問題形式：記述式

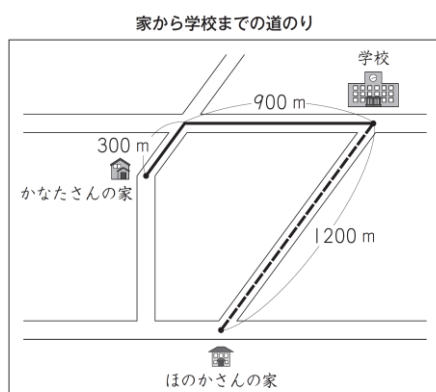
【出題の趣旨】 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる。

日常生活の問題を解決するために、示された場面を解釈し、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察できるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉

令和3年度 1 (2) (県 88.1% 国 86.7%) 1 (3) (県 54.4% 国 55.8%) 1 (5) (県 86.8% 国 85.1%)

4 (3) かなたさんとほのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、ほのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとほのかさんのどちらが速いですか。

下の 1 と 2 から選んで、その番号を書きましょう。

また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1 かなたさん

2 ほのかさん

〈正答の条件〉

かなたさんの方が速いと判断できた上で、次の二つの事柄が書けている。

- ・かなたさんとほのかさんが歩いた道のりが等しいこと
- ・かなたさんがかかった時間がほのかさんがかかった時間よりも短いこと

もしくは、次の二つの事柄が書けている。

- ・かなたさんの歩く速さ
- ・ほのかさんの歩く速さ

正答例

【番 号】 1

【わけ 1】 かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900 + 300 = 1200$ で、1200mです。かなたさんとほのかさんが歩いた道のりは、1200mで同じです。かかった時間は、かなたさんのほうが短いです。道のりが同じとき、時間が短いほど速さが速いので、かなたさんのほうが速いです。

【わけ 2】 かなたさんの家から学校までの道のりは、 $900 + 300 = 1200$ で、1200mです。だから、かなたさんの歩く速さは、 $1200 \div 20 = 60$ で、分速 60mです。ほのかさんの歩く速さは、 $1200 \div 24 = 50$ で、分速 50mです。だから、かなたさんのほうが速いです。

学習指導上の留意点

○ 異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係に着目し、目的に応じて大きさを比べたり表現したりする方法を考察し、それらを日常生活に生かすことができるようにする

速さなど単位量当たりの大きさについて考察する方法を工夫し、日常の事象の解決に活用できるようにすることが大切である。

指導のポイント

- ① 速さを、単位時間あたりに移動する長さとして捉えたり、一定の長さを移動するのにかかる時間として捉えたりするなど、目的に応じた処理の仕方を工夫する活動を取り入れる。
- ② 日常生活の場面と関連付けて、速さのイメージをもつことができるようにする。また、速さを公式によって求めることを学習した後も、単位量当たりの大きさの意味に基づき、速さを比べる活動を取り入れる。

(3) 算数 設問番号 **2** (1) 乗法の性質や除法の除数と商の大きさの関係について
考察すること

学習指導要領の領域等：3 学年 A 数と計算 (3) イ (ア)

評価の観点：思考・判断・表現 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる。

問題場面の数量の関係に着目し、計算の仕方や計算の結果について考察できるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉

平成 26 年度 B **1** (2) (県 60.2% 国 55.2%)

平成 30 年度 B **4** (1) (県 65.9% 国 62.7%)

2

トラック 1 台で、350 kg の米を運ぶことができます。



(1) まず、あやのさんたちは、このトラック 2 台では、何 kg の米を運ぶことができるかについて考えました。

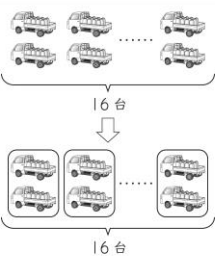


$350 \times 2 = 700$ で、
700 kg の米を運ぶことができます。

次に、このトラック 16 台では、何 kg の米を運ぶことができるかについて考えています。



式は 350×16 です。筆算をしようかな。



筆算をしなくても、
 350×16 の答えを求めることができます。
2 台のときの米の重さをもとにすれば、16 台のときの米の重さがわかります。

そこで、あやのさんたちは、下の図のように、 $350 \times 2 = 700$ であることをもとに、 350×16 の積の求め方についてまどめました。

このとき、 350×16 のかける数「16」が、 350×2 のかける数「2」の何倍になっているかに着目しました。



2 台



16 台

$$\begin{array}{rcl} 350 \times 2 & = & 700 \\ \downarrow \times \text{㊦} & & \downarrow \times \text{㊧} \\ 350 \times 16 & = & \text{㊨} \end{array}$$

上の㊦に入る数に着目すると、 350×16 の積㊨は、どのように求めることができますか。

㊦に入る数に着目したときの㊨の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、㊦に入る数をどのように求めたのかがわかるようにしましょう。

また、㊨に入る数も書きましょう。

〈正答の条件〉

次の①、②の全てを書き、㊨を 5600 と書いている。

① 16 が 2 の 8 倍であることを表している式や言葉

② 700 の 8 倍になることを用いて、 350×16 の積㊨を求める式や言葉

正答例

【求め方】 $16 \div 2 = 8$ で、かける数の 16 は、かける数の 2 の 8 倍です。 350×16 の積は、 350×2 の積の 8 倍だから、 $700 \times 8 = 5600$ です。

【㊨】 5600

学習指導上の留意点

- 数量の関係に着目し、計算の仕方を考えたり計算に関して成り立つ性質を見いだしたりするとともに、その性質を活用して、計算を工夫したり計算の確かめをしたりすることができるようにする

計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察することが大切である。

指導のポイント

- ① 既習の乗法の意味や、十進位取り記数法や乗法九九などを基にして、新しい計算の仕方を考えるような活動を取り入れる。
- ② 計算を工夫する活動を通して、問題解決等において、よりよいものを求め続けようとする態度や、多面的に考えようとする態度を育成する。

4 中学校「数学」

- (1) 数学 設問番号7 (2) データの傾向を読み取り、批判的に考察し判断すること
 学習指導要領の領域等：2 学年 D データの活用(1) イ(ア)
 評価の観点：思考・判断・表現 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 複数の集団のデータの分布の傾向を比較して読み取り、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる。

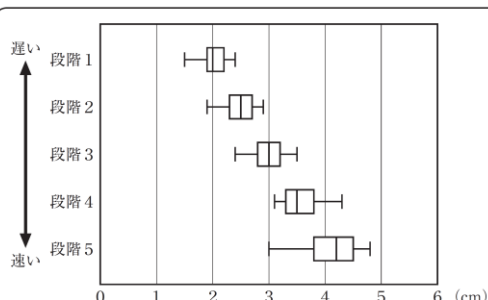
日常生活や社会の事象を考察する場面において、表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、判断の理由を数学的に説明することができるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉

令和5年度7(2) (県 42.9% 国 33.6%)

- 7 (2) 咲希さんは、車型ロボットの速さを変えたときに、10 cm の位置から進んだ距離がどうなるか調べることにしました。そこで、速さを段階1から段階5まで変えて、10 cm の位置から進んだ距離をそれぞれ20回ずつ調べ、データを集めました。そして、データの分布の傾向を比較するために箱ひげ図に表しました。

10 cm の位置から進んだ距離の分布



	10 cm の位置から進んだ距離 (cm)				
	最小値	第1四分位数	中央値	第3四分位数	最大値
段階1	1.5	1.9	2.0	2.2	2.4
段階2	1.9	2.3	2.5	2.7	2.9
段階3	2.4	2.8	3.0	3.2	3.5
段階4	3.1	3.3	3.5	3.8	4.3
段階5	3.0	3.8	4.2	4.5	4.8

前ページの10 cm の位置から進んだ距離の分布から、「速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、10 cm の位置から進んだ距離の分布の5つの箱ひげ図を比較して説明します。下の説明を完成させよう。

説明

したがって、速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、10 cm の位置から進んだ距離が長くなる傾向にある。

〈正答の条件〉

次の(a)又は(b)について記述しているもの。

- (a) 箱ひげ図の箱がだんだんと右側にずれていっていること。
 (b) 第1四分位数と第3四分位数がだんだんと大きくなっていくこと。

正答例

- 速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、箱ひげ図の箱の位置が右側にずれていっている。
- 速さが段階1から段階5まで、だんだん速くなるにつれて、第1四分位数と第3四分位数が大きくなっている。

学習指導上の留意点

- 判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるようにする

ある事柄が成り立つ理由を数学的に説明する際には、説明の対象となる成り立つ事柄を明確にした上で、その根拠を指摘することが大切である。

指導のポイント

- ① 日常の事象を題材とした問題を取り上げ、その解決のために必要なデータを収集・整理し、四分位範囲を求めたり箱ひげ図で表したりして複数の集団のデータの傾向を比較して読み取り、その結果を基に説明するという一連の活動を取り入れる。
- ② 箱ひげ図から読み取った事柄とその根拠について、話し合う活動を取り入れる。その際、箱ひげ図から読み取ったデータの特徴を根拠としてよいかどうかを考えるなど、批判的に考察できるように指導する。

(2) 数学 設問番号 **8** (2) 日常的な事象における問題について、関数関係に着目し
構想を立て解決すること

学習指導要領の領域等：2 学年 C 関数 (1) イ (イ)

評価の観点：思考・判断・表現 問題形式：記述式

【出題の趣旨】 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。

日常生活や社会の事象を考察する場面において、事象の中にある関数関係を見だし、数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法について数学的に説明することができるかどうかをみる問題

〈関連する問題と正答率〉

平成 30 年度 B **3** (3) (県 15.4% 国 13.2%)

令和 2 年度 **6** (2) (実施せず)

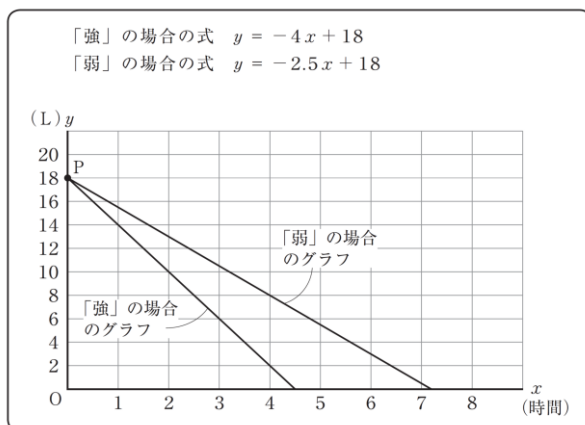
8

(2) 前ページのストーブの使用時間と灯油の残量から、ストーブを使用し始めてから 18 L の灯油を使い切るまでの「強」の場合と「弱」の場合の使用時間の違いがおよそ何時間になるかを考えます。下のア、イのどちらかを選び、それを用いて「強」の場合と「弱」の場合のストーブの使用時間の違いがおよそ何時間になるかを求める方法を説明しなさい。ア、イのどちらを選んで説明してもかまいません。また、実際に何時間かを求める必要はありません。

ア 「強」の場合の式 $y = -4x + 18$ と「弱」の場合の式 $y = -2.5x + 18$

イ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフ

ストーブの使用時間と灯油の残量



〈正答の条件〉

アを選択し、次の(a)、(b)について記述しているもの、又は、イを選択し、次の(c)、(b)又は(c)、(e)について記述しているもの。

- (a) 「強」の場合の式と「弱」の場合の式に $y = 0$ を代入すること。
- (b) 上記(a)に対応する x の値の差を求めること。
- (c) 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフの y 座標が 0 である点に着目すること。
- (d) 上記(c)に対応する x の値の差を求めること。
- (e) 上記(c)に対応する 2 点間の距離を読み取ること。

正答例

〈アを選択した場合〉

- ・ 「強」の場合の式と「弱」の場合の式について、それぞれの式に $y = 0$ を代入し、 x の値の差を求める。

〈イを選択した場合〉

- ・ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、 y の値が 0 のときの x の値の差を求める。
- ・ 「強」の場合のグラフと「弱」の場合のグラフについて、 y 座標が 0 のときの 2 点間の距離を読み取る。

学習指導上の留意点

○ 問題解決の方法を、数学的な表現を用いて説明できるようにする

問題解決の方法に焦点を当て、何をどのように用いればよいかといった「用いるもの」と「用い方」を確認し、表、式、グラフの「用い方」について数学的に説明できるようにすることが大切である。

指導のポイント

- ① 具体的な場面において、事象を理想化したり単純化したりすることで、数量の関係を一次関数とみなすことの意味を理解できるような機会を設ける。
- ② 日常の事象や社会の事象の中から取り出した二つの数量の関係を一次関数とみなすことで解決できる問題を考察する際には、目的に応じて表、式、グラフを適切に選択し的確に表現できるようにする。

(3) 数学 設問番号⑨(2) 筋道を立てて証明し、図形を考察すること

学習指導要領の領域等：2 学年 B 図形(2)ア(イ)イ(ア)

評価の観点：知識・技能 問題形式：選択式

【出題の趣旨】 事象を角の大きさに着目して観察し、問題解決の過程や結果を振り返り、新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる。

図形の性質を考察する場面において、問題解決の過程や結果を振り返って新たな性質を見いだすことができるかどうかをみる問題

- ⑨ 線分ABがあります。線分AB上に点Cをとり、AC、CBをそれぞれ1辺とする正三角形PAC、QCBを、線分ABについて同じ側につくります。そして、点Aと点Q、点Bと点Pを結びます。ただし、点Cは点A、Bと重ならないものとします。

桃子さんは次の図1のように点Cをとり、健太さんは次の図2のように線分ABの中点に点Cをとりました。

図1

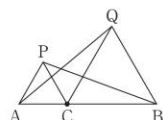
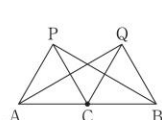
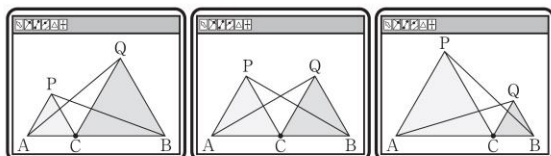


図2



二人は図1と図2を観察し、線分や角についていえることがないか気になりました。そこで、コンピュータを使って点Cを動かしながら調べました。



正答 ①に ウ と解答し、
②に ウ と解答しているもの。

- (2) 健太さんは、線分ABの中点に点Cをとった場合に $\angle AQC$ と $\angle BPC$ が等しく見えたことから、他の場合にはどうなるか気になりました。

そこで、次の図3のように、線分ABの中点をMとして、点Aから点Bの方向へ点Cを動かした場合に $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の大きさがどうなるかを調べ、下のようまとめました。

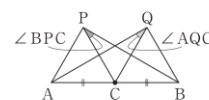
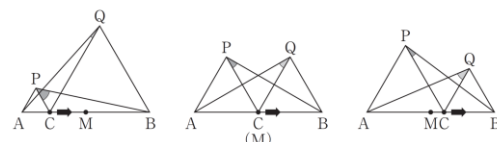


図3



健太さんは、前ページの調べたことから、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和について何かいえることがないか考えています。

このとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和について、次のことがいえます。

- ◎ 点Cが点Aと中点Mの間にあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は ①。
- ◎ 点Cが中点Mと点Bの間にあるとき、 $\angle AQC$ と $\angle BPC$ の和は ②。

上の ①、② のそれぞれに当てはまるものを、下のアからエまでの中から1つずつ選びなさい。

ア 60°より大きい

イ 60°より小さい

ウ 60°になる

エ 60°より大きいことも小さいこともある

学習指導上の留意点

- 図形の性質を考察する場面において、事柄が成り立つ理由を論理的に考察できるようにする

証明に用いた前提や証明の根拠、結論を整理するなどして証明を振り返り、新たな性質を見いだす活動を取り入れることが大切である。

指導のポイント

- ① 観察や操作、実験等の活動を通して、予想した事柄が成り立つ理由を筋道を立てて考えることができるようにするとともに、条件を変えるなどして発展的に考察する活動を取り入れる。
- ② 条件を変えた図形を観察する際には、コンピュータを活用することも効果的である。1人1台端末を利用し、成り立つと予想される図形の性質を見だし、それを他の生徒と共有するなどの活動を取り入れる。

令和6年度全国学力・学習状況調査の傾向 児童生徒質問調査(小学校・中学校)

1 本年度の特徴と関連する質問

○基本的生活習慣、学習習慣等

- 普段(月曜日～金曜日)、家庭における携帯電話、スマートフォン、コンピュータ等の使用に関する質問が再掲
 - ・テレビゲーム、SNS、動画視聴等の1日当たりの時間(5)(6)
 - ・使い方に関する家庭の約束の遵守(7)
- 健康に過ごすために、学んだことを生活に役立てているかを問う質問が新設(8)
- 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができているかを問う質問が新設(20)

○GIGAスクール構想の推進

- ICTを活用した学習状況について、児童生徒がどのような点に有用性を感じているかなど、きめ細かに把握できるような質問が新設
 - ・自分のペースで理解しながら学習を進めることができる(28-1)
 - ・分からないことがあった時に、すぐ調べることができる(28-2)
 - ・楽しみながら学習を進めることができる(28-3)
 - ・画像や動画、音声等を活用することで、学習内容がよく分かる(28-4)
 - ・自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができる(28-5)
 - ・友達と考えを共有したり比べたりしやすくなる(28-6)
 - ・友達と協力しながら学習を進めることができる(28-7)

○主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

- 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況等を明らかにするため、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する項目を継続
- 個別最適な学び・協働的な学びに関する項目を充実
 - ・学級の友達や生徒との間で話し合う活動について問う質問が、「自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」から「自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている」に変更(33)
 - ・授業で学んだことの活用について問う質問が、「ほかの学習で生かしている」から「次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりする」に変更(35)
 - ・友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいるかどうかを問う質問(新:37)

○学習に対する興味・関心や授業の理解度等

- 国語の学習について
 - 調査結果と質問調査の結果を合わせて複合的に分析できるよう、授業においてどのように学んでいるかを問う質問が追加

- ・違う点や似ている点を意識したり、図で示したりしながら、情報を整理（小46）
- ・具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解（中46）
- ・目的に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして伝える内容を検討（小47）
- ・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめる（中47）
- ・目的に応じて、自分の考えが伝わるように工夫して文章を書く（小48）
- ・自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く（中48）
- ・人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりして読む（小49）
- ・目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈（中49）

→算数・数学の学習について

主体的に生活や学習に生かそうとしたり、問題解決の過程や結果を改善しようとしたりするなど、数学的に考える資質・能力の育成に関する質問が新設・再掲

- ・学習したことを、今後の学習で活用しようとする（新:57）
- ・学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える（再:54）
- ・問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える（再:55）
- ・問題が解けたとき、別の解き方を考えようとする（再:56）

→理科・英語の学習について

今年度調査を実施していない教科についても、過去の調査で明らかになった課題を踏まえ、それらがどのように変化しているのかをフォローアップできる項目を新設・追加（継続）

- ・自然の中や日常生活、理科の授業において、理科に関する疑問を持ったり問題を見いだしたりすることがある（新:59）、他（再:58、60）
- ・英語の授業の内容はよく分かる（新:小63）、他（継:小61、62 中61～65）

○その他

→放課後や週末の過ごし方（家庭での過ごし方、学習塾、習い事、部活動や地域の活動への参加等）を具体的に問う質問が集約され新設（26）

→学校の授業時間以外や休日、家庭での学習習慣に関する質問が削減

- ・令和5年度は、6問（16～21）だったが、今年度は、2問となる（21、22）

→読書についての質問が削除

→部活動に関する質問が削除

- ・令和5年度は、読書に関する質問が1問（21）、部活動に関する質問が4問（中25～28）あったが、今年度は0問となる

2 参考

→小学校は、63問で、昨年度の59問より4問増加

- ・算数や理科の学習に関する質問が再掲・新設された影響が大きい

→中学校は、65問で、昨年度の72問より7問減少

- ・英語や部活動に関する質問の削減・削除による影響が大きい

令和6年度全国学力・学習状況調査の傾向 学校質問調査（小学校・中学校）

1 本年度の特徴と関連する質問

○児童生徒の学習の実態に応じた指導の改善や多様な個々の状況に応じた学びの実現に生かす

→「個別最適な学び・協働的な学び」の充実について問う質問が新設、再掲

- ・授業や学校生活において、児童生徒が、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題を解決する取組(新:質問 28)
- ・児童生徒が自分で学ぶ内容を決め、計画を立てて学ぶ活動の実施(新:質問 29)
- ・児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導(再:質問 32)

○各教科の授業における児童生徒の学びについて把握

→「国語科の指導方法」(新設)

- ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるような指導(質問 小 41)
- ・目的や意図、場面の状況に応じて、集めた材料を分類したり関係付けたりして、話す内容を検討することができるような指導(質問 小 42)
- ・目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書くことができるような指導(質問 小 43)
- ・登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導(質問 小 44)
- ・話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係を捉えて理解することができるような指導(質問 中 41)
- ・話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることができるような指導(質問 中 42)
- ・自分の考えが伝わるように、表現の効果を考えて文章を書く指導(質問 中 43)
- ・説明的な文章を読み、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるような指導(質問 中 44)

→「算数科の指導方法」(新設)

- ・問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、児童生徒に筋道を立てて説明させるような授業(質問 47)
- ・児童生徒がどのようなことにつまずくのかを想定した指導(質問 48)

→「理科の指導方法」(再掲)

- ・自然の事物・現象から問題を見いだすことができる指導等、教科調査が実施された年度の項目(質問 49～51)

→「英語科の指導方法」(継続)

- ・外国語教育の充実に取り組む上での研修や自己研鑽の機会等の設定や英語を聞いたり、読んだりして概要や要点を捉える言語活動について問うなど、教科調査が実施された年度の項目(質問 小 52、中 52～56)

※今年度調査問題が実施されない教科についても質問が追加された。

○学校運営に関する状況や教職員の資質向上に関する状況

(子供たちのウェルビーイング向上のための教師のウェルビーイング)

→「教職員間の情報共有の状況や学校組織の心理的安全性の確保」について問う質問が新設、再掲

- ・可能な限り多くの教職員で見取り、児童生徒の様子について情報交換を実施(新:質問 21)
- ・教職員による、新しい取組の導入や提案(新:質問 22)
- ・教職員が互いに相談できる学校組織の雰囲気(新:質問 23)
- ・教職員自身の心身の健康状態につき、振り返り対処する機会の提供(新:質問 24)
- ・学校運営の状況や課題を全教職員で共有し、改善に向けての組織的な取組の実施(再:質問 20)

○ICTを活用した学習状況

→個別最適な学び(個に応じた指導)や主体的・対話的で深い学びにおけるICTの活用状況について問う質問が継続・新設

- ・ICTを活用した学習状況に関する項目(継:質問 小53~66、中57~70)
- ・不登校児童生徒に対する学習活動等の支援(授業配信を含む)
(新:質問 小65-1、2 中69-1、2)

○その他

→家庭学習の進め方の工夫、教育相談体制について問う質問が新設・再掲

- ・児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなどの家庭学習の進め方の工夫について
(新:質問 小72 中76)
- ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーによる教育相談体制について
(再:質問 8)

2 参考

- ・「新型コロナウイルス感染症の影響に関する項目」が削除されたため、小学校は昨年度より5問減り76問に、中学校は昨年度より9問減り80問となった。
- ・「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」において、児童生徒の個別最適な学び・協働的な学びに関する項目が充実し、児童生徒が学校においても、家庭においてもより主体的に学んでいるかが問われた。
- ・教育振興基本計画において、「子供たちのウェルビーイングを高めるには、教師のウェルビーイングを確保することが必要」とされている。このため、教職員間の情報共有の状況や学校組織の心理的安全性の確保等の観点から新規項目が追加された。
- ・今年度実施された教科の学習状況について、質問調査の結果も合わせて複合的に分析できるよう項目が追加された。(質問 国語41~44 算数・数学45~48)
- ・過去の調査で明らかになった課題を踏まえ、それらがどう改善、変化してきたかについて追跡調査できるように各教科の授業における児童生徒の学びにおいて、今年度調査問題が実施されない教科においても質問が追加された。(質問 理科49~51 英語小52、中52~56)